JAだより いわい

2026 10 No.562

岩井農業協同組合・〒306-0631　茨城県坂東市岩井2229番地　TEL0297-35-8331(代)



地域農業の未来を描く座談会開催……P4

JA岩井ホームページでJAだよりがご覧になれます

早わかり 国消国産の要点整理

食べることは、未来を選ぶこと

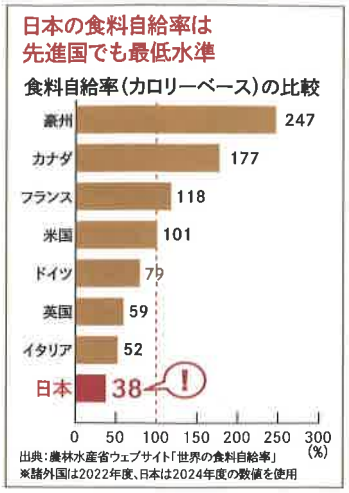
普段の買い物や食事の選択は、私たち自身だけでなく、次の世代の「食の未来」にまで影響します。日本は現在、食料の約6割を海外からの輸入に頼っています。もし輸入が止まったら――。そんなリスクを減らすために今、進めたいのが「国消国産」です。

"災害に備える"ように

「国消国産」運動を進める背景には、日本の食料事情があります。日本の食料自給率はカロリーベースで38％と、先進国の中でも低い水準にとどまっています。食料は輸入に依存しているのが現状で、国際情勢によっては突然、輸入が止まるというリスクを抱えています。

しかも、日本の農業は生産者が減り続けており、食料が必要になってもすぐに十分な量を生産できる環境ではありません。

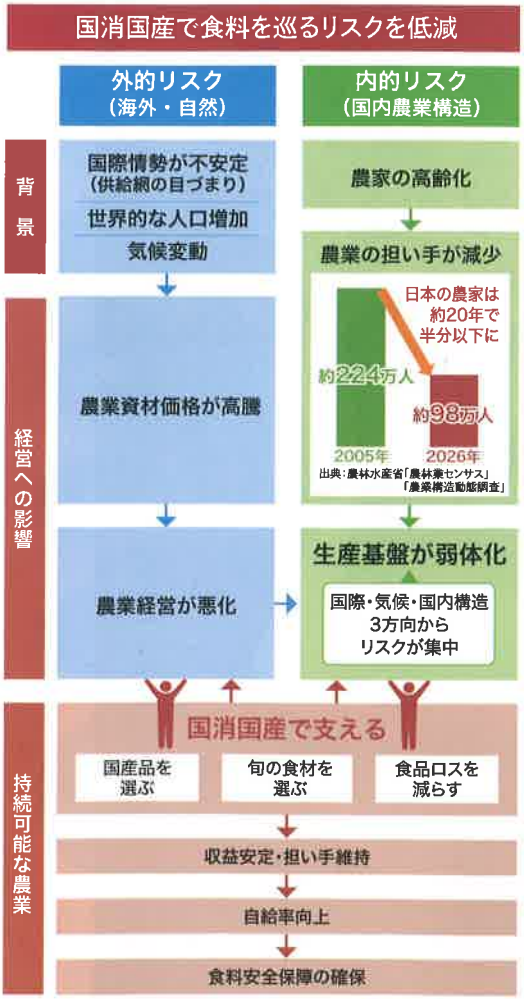
"災害に備える"ように、普段から国産を選ぶことが、将来の食料を守る行動になるのです。



地産地消は国消国産の原点

「国消国産」と似た言葉に「地産地消」があります。地域で生産されたものをその地域で消費する取り組みです。

「地域で取れたものを食べる」「JA直売所で買う」「売り場で国産を選ぶ」「外食の時にも国産食材を使っているお店を選ぶ」――。その積み重ね、その行動こそが国消国産となります。地産地消は、農畜産物の輸送距離が短く新鮮で環境負荷が少ないなどのメリットがあります。



「選ぶ」ことがすでに「行動」

野菜や肉を購入するときは産地表示を確認し、できるだけ国産品を選ぶこと、外食や加工食品でも国産原料に注目することが大切です。

旬の食材を選ぶことも有効です。旬の農畜産物は国内で安定して生産されることが多く、価格も比較的手頃で、味や栄養価も高い傾向があります。さらに、食べ残しを減らす「食品ロス削減」も重要です。せっかく生産された農畜産物を無駄にしないことも、農業を支える行動につながります。日々の小さな選択が、未来の食を守る力となるのです。



10月16日は「国消国産の日」　国消国産月間はキャンペーンいろいろ

JAグループは国連の「世界食料デー」に合わせ、毎年10月16日を「国消国産の日」としています。

また、10、11月の「国消国産月間」の期間中は、①JA直売所を複数回訪問すると全国の農畜産物が当たる「JA直売所キャンペーン」や、②JA全農の通販サイト「JAタウン」ではお客さまの送料負担なしとなる「JAタウンキャンペーン」――など、JAグループ各組織がイベントやキャンペーンを展開します。10月3日（土）には東京都内で大都市圏の消費者を対象にイベントを開きます。

制作協力：JA全中

「食」は播種作業がスタートライン

ＪＡと農業後継者グループの七重食育研究会は８月18日、坂東市立七重小学校の５年生21人を対象に秋レタスの播種（種まき）体験を行いました。冒頭、同研究会の飯田好二会長が、「秋に収穫するレタスは、暑い夏に作業が始まる。水分補給しながら楽しく体験しよう」とあいさつしました。

野菜が食卓に並ぶには種まきがスタートラインと位置づけるこの体験では、コーティングされたレタス種子を200穴のセルトレイに手作業で一粒ずつ播種した他、専用播種器を使って一度に200粒播種する作業を体験しました。児童らは、コーティング種子の中にある小さくて細い種の形状や専用播種機の便利さに驚いていました。

この日播種したセルトレイ16枚分（3200粒）のレタスは、同研究会役員が定植できる状態になるまで約３週間育苗管理した後、児童らと小学校内の圃場に定植し、その後の収穫作業も計画しています。



播種作業の大切さを教える研究会役員（左）

実りの秋・食欲の秋を体感

ＪＡと市は８月22日、ガールスカウト茨城県第８団の団員やその保護者ら50人と稲刈り体験・新米の試食会を行いました。４月26日に同団員らで植えた稲が見事な黄金色となり、収穫を迎えました。水田に入るとトンボやカエル、クモなどいろいろな生き物が住んでいることに気づき、新たな発見があった中、１時間ほど鎌を使った手刈り体験に汗を流しました。はじめは不慣れであった鎌の使い方もしだいに上手になり、笑顔で収穫を楽しみました。

また、事前に収穫した「あきたこまち」をおにぎりにして、岩井北支店で試食しました。涼しい部屋で一息ついた参加者らは、「食べるまでの苦労があった分、いつも以上に美味しい」「もう一個おかわりしよう」と、ここでも笑顔を見せて実りの秋を実感しました。



七重食育研究会　飯田好二会長の水田で手刈り体験

座談会で地域農業の未来を描く

ＪＡは８～９月の４日間、園芸部支部（東・南・西・七重）それぞれで農業に関する座談会を開きました。昨年秋に実施した園芸部全戸への「経営意向調査」で、農家戸数が５年先には減少傾向となる調査結果にもとづき、ＪＡに求められる対応、ＪＡとして取組む対策を見い出し、これからも地域に寄り添い必要とされるＪＡ像を確立するものです。

座談会には園芸部の支部役員や農業後継者らが出席し、ＪＡからは飯塚利幸代表理事組合長の他、営農・経済・総務部の部課長らが同席しました。テーマを制限することなく、生産者の生の声を聴き取り、飯塚組合長が一問一答対応しました。討議の内容は、農業経営が成り立つ再生産価格の確保や米の需給・価格のバランス調整、農業政策、情報と拡散力、新規就農に対する支援・課題に関することなど、多岐にわたり活発な意見が飛び交いました。

今後、ＪＡでとりまとめを行い、園芸部へフィードバックするとともに、地域農業の未来を描く取組みとして実行してまいります。



生産者の意見に回答する飯塚組合長（左奥から二人目）

道路清掃活動で地域貢献

ＪＡは９月初め、本店北側の道路清掃を行いました。この道路は隣接する小学校の児童らの通学路となっており、夏休みが明けて安全に登下校ができるように、また９月から道路交通法の一部改正があり、生活道路の制限速度が時速30㎞に制限されたことによる見守り活動も兼ねて実施しました。

ＪＡ職員・ＪＡ共済の地域貢献活動であることが一目で分かるように作製した白色のオリジナルビブス（ベスト）を着用して、今回の活動を行いました。今後も、地域に根ざす活動を継続し、必要とされるＪＡとして地域貢献に取り組んでまいります。



オリジナルビブスの背面ロゴ



本店北側の通学路を清掃するＪＡ職員

県西４ＪＡ職員が「食」と「農」を討議

茨城県西地域の４ＪＡ（北つくば、常総ひかり、茨城むつみ、岩井）は８月６日、ＪＡ岩井本店で「茨城県西４ＪＡ中核人材研修会」を開きました。ＪＡの未来を担う職員育成が目的で、部署や組合の垣根を越えて横断的に学習します。毎月開催する研修会には、全国農業協同組合中央会（ＪＡ全中）の専務・農林中央金庫の副理事長などを歴任した向井地純一氏を講師に迎え、各ＪＡから選抜された中堅職員14人が参加。当ＪＡでは農産担い手課の石塚浩司担当、営農課の高橋匡人担当の２人が参加しています。

12回構成の４回目となった今回は、国内の「ＪＡファーマーズ・マーケット」「農林水産物・食品の輸出」「６次産業化」の現状や取り巻く環境に対して、ＪＡの体制整備・人材育成をどう進めるべきかをテーマに、国内外の優良事例や支援策を提示してＪＡの存在意義と役割を学びました。

また、３つのテーマをもとにグループごとで意見を交わし、県西地域のＪＡとして取り組むべき情報発信力の強化や農産物の差別化販売など、今後の対策を討議・発表し合いました。



意見を交わすＪＡ営農課の高橋担当（右から２人目）、講師 向井地氏（右）

農業機械の安全操作を再確認

ＪＡは８月25日、農家に配属されている外国人農業技能実習生や特定技能生を対象に、農業機械の安全操作講習会を開きました。野菜予冷センターで開かれた同講習には約60人が参加し、日々の農作業で扱うねぎ収穫機やベストロボ（半自動ねぎ根葉切り皮むき機）、レタスロボパック（包装・供給一体型機）などの安全な操作方法を学びました。

ＪＡの冨山清孝農機センター長は、「普段から使い慣れているからこそ、操作方法を再確認して、安全第一で作業して欲しい」と呼びかけ、ＪＡ農機センター職員や各農機具メーカー担当が、実際の作業を想定しながら安全な操作方法や危険個所、農作業時の服装など、通訳を通して説明しました。似たような機種でも操作レバーや停止ボタンの場所が違うことも説明し、作業前の確認が重要であることを伝えました。

参加した実習生らは「ねぎを掘り上げる爪の深さ調整の注意点はどこか」「レタスの包装が失敗した場合、機械の緊急停止はどうやるのか」など、質問しながら安全操作への理解を深めました。



ねぎ収穫機の危険個所について説明するＪＡ農機センターの中野哲也担当

理事会だより

令和８年８月26日

主な報告事項
①７月末実績について
②組合員の加入及び脱退について
③固定資産の取得について
④令和８年度第２四半期のコンプライアンス関連諸規程に基づく報告について
⑤ＪＡ３カ年（令和７年度～令和９年度）計画兼自己改革工程表について
⑥令和８年度７月末余裕金運用状況について
⑦令和８年産ＪＡ米・一般米概算金・加工用米価格について
その他

主な協議事項
①共済規程の一部変更について
②令和８年度一斉増資について
③取引の「リスク評価書」の定例改正について
④第３四半期の余裕金運用方針について
⑤「コンプライアンス・マニュアル」の一部改正について
その他

今月の表紙



内海妙子さん（駒踏）のお孫さん
奏風（かなた）くん（7）　晴葵（はるき）くん（4）

ファクトで読み解く農業



農業政策に違和感　強化すべきは国内生産

東京大学大学院 特任教授・名誉教授●鈴木宣弘

国際情勢が緊迫すると輸入途絶リスクが一段と高まり、「国民が必要とし消費する食料はできるだけ国内で生産すること」（国消国産）が今こそ重要になっている。

にもかかわらず、コスト高で疲弊が強まる農村現場を支え、早急に食料自給率を高める政策は提示されないまま、輸入先国との関係強化と海外農業生産への投資に努めることが提示されている。

一方、有事になったら慌てて「花から芋へ」に象徴されるようなカロリーを生みやすい作物へと生産転換を促す対策がとられている。今国内生産を支えずして、有事だけ増産させるといっても無理だ。そんなことをする前に、普段から食料自給率を高めておけば済む話だ。

中国は今、有事に備えて14億人の人口が1年半食べられるだけの食料備蓄をすると、国内生産強化に加えて世界中から買い占め始めた。かたや日本の備蓄は米を中心にせいぜい1・5カ月分しかない。

日本農業には潜在生産力はある。

米は今、800万トンくらいしか作っていないが、日本の水田をフル活用すれば1200万トン以上作れる。500万トンを1俵（60キロ）1・2万円で備蓄に買い入れても1兆円だ。なのに、水田を「つぶす」（畑地化支援）のに750億円の補正予算を付けた。施策の方向性が違う。

そして、「規模拡大によるコストダウン、輸出拡大、スマート農業」が連呼される現状に違和感を覚える。それらは現状の危機への対策になり得るか。

輸出の前に脆弱（ぜいじゃく）化する国内供給をどうするかが先だ。仮に、輸出が伸ばせても農家の手取りが増えてはいない。多くは輸出に関わる企業の利益である。

スマート農業の普及促進策も、関連企業への税制や金利の優遇で、企業支援の要素が強い。さらに、これまで半分未満でないと認めなかった農業法人の農外資本比率を3分の2未満に引き上げて、農外資本の農業参入を緩和する。誰の利益か。

コスト高に苦しむ農家の所得を支える抜本的仕組みが提案されれば農家は生き返る。それが先ではないか。

※日本農業新聞　2024年3月12日付「今よみ」を一部改編

JA岩井

こども食堂 2026

応援定期貯金

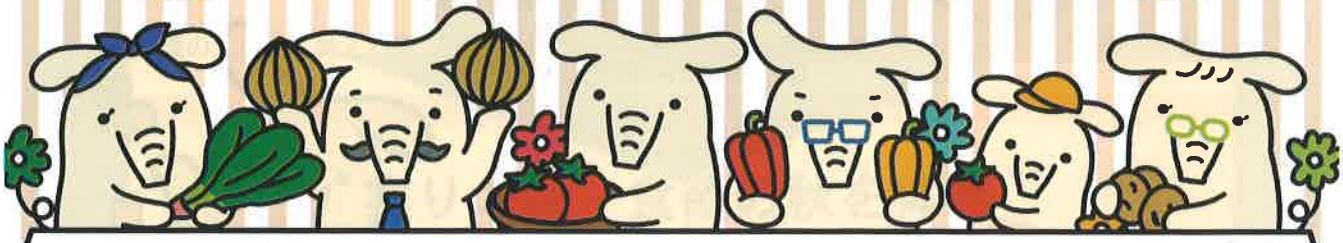
募集総額130億円








取扱期間　2026年9月1日[火]▶2027年1月29日[金]



©よりぞう

※お預入れいただいた額の0.0154%相当額を宮城県信用農業協同組合連合会が認定NPO法人宮城NPOセンター・コモンズを通じて県内の子ども食堂に寄付します。（寄付率：0.0154%、上限200万円）※寄付金は厳正な審査により、活動資金を必要とする宮城県内の子ども食堂に助成します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

子ども食堂応援定期貯金を

店頭表示金利

【預入期間】スーパー定期貯金<単利型>、大口定期貯金
1年（元金または元利金自動継続）

＋年 0.2%

［税引後 年0.159%］

利用するメリット

01 お客様負担なしで子ども食堂を応援できる。

本商品にお預入れいただくと、**お客様の負担は0円**で子ども食堂に寄付することができます。

02 定期貯金利息を満額受け取ることができる。

本商品は一般的な定期貯金同様、決められた期間お預入れいただくと**満期後にお利息を満額受け取ること**ができます。

商品概要についてはJA窓口までお問い合わせください。

JAリフォームローン
とくとくプラン

令和8年8月3日(月) ～ 令和9年1月29日(金)

店舗金利より

【変動金利型】
年最大 1.3%引下げ

以下の条件により
店頭金利より
最大1.3%引下げ



最大引下げ適用条件

条件〈1〉（いずれか１つ以上必須）

①太陽光システムを設置、および電力売却代金口座振替指定
②給与振込口座の既存契約、または新規契約
③JAカードの既存契約、または新規契約
④通帳レス口座新規契約、または既存通帳口座切替
⑤家族(非同居含む)による年金振込口座の既存契約、
　または新規契約

引下げ幅(変動金利型)　各▲0.5%

条件〈2〉

⑥公共料金口座振替の既存契約、
　または新規契約(２件以上)
⑦JAネットバンクの既存契約、または新規契約
⑧JA住宅ローンの既存取引

引下げ幅(変動金利型)　各▲0.4%

JA岩井

岩井東支店 0297-35-0043
岩井西支店 0297-35-0354
岩井南支店 0297-38-2706
岩井北支店 0297-34-2321
本店融資課 0297-35-8333

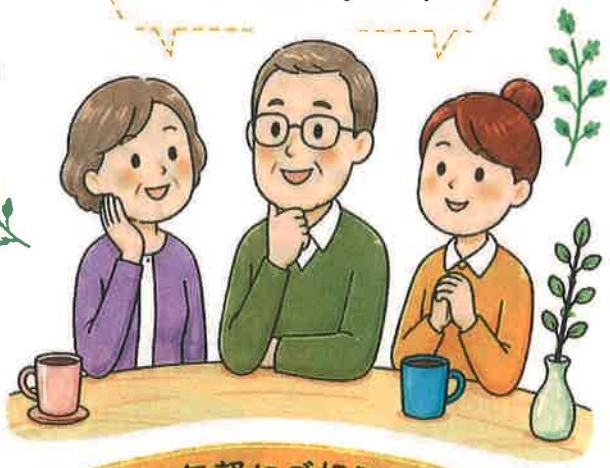
JAリフォームローンの詳細
(商品概要)はこちら☞

※審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。※ご利用条件、適用金利等につきましては、お近くのJA窓口までお問い合わせください。

ちょっと
聞いてみませんか？

葬儀のこと、今のうちに。

気になること、
一緒に解決しましょう！



こんなこと、ありませんか？

- ☑ 葬儀って、どんなふうにするの？
- ☑ 費用ってどのくらいかかるの？
- ☑ 家族だけでできるのかな？
- ☑ 何を準備しておけばいいの？
- ☑ まだ早いかな…と思っているけど、少し気になっている

いつでもお気軽にご相談ください

葬儀の事前相談受付中

ご相談は無料です

まだ何も決まっていなくても大丈夫！

「ちょっと話を聞いてみたい」だけでも大歓迎です。
お話ししながら、気になることや不安なことを
ひとつずつ一緒に整理していきましょう。



ご家族と一緒の
ご相談も
承ります♪

ご相談いただけること（例）

- 葬儀の流れについて
- 費用・プランについて
- 家族葬について
- 必要な準備や手続きについて
- ご希望に合わせた葬儀について

ご来館でも、お電話でもご相談いただけます。
無理な勧誘は一切いたしませんので、
安心してお越しください。

ご相談・お問い合わせはこちら

0297-35-6667

受付時間　8：30～17：00

株式会社コスモ
坂東市鵠戸1233-2



ＪＡだよりいわい　No.５６２／発行所＝岩井農業協同組合／発行人＝飯塚利幸／編集＝企画管理課／印刷＝生文社㈱

年金友の会会員の皆様へ

第4回 JA岩井年金友の会 ゴルフ交流大会 開催のご案内



開催日　令和8年 **１２月１５日㊋**

【競技開始】午前８時４５分スタート

会場　**坂東ゴルフクラブ**（坂東市弓田3377）

参加資格
ＪＡ年金友の会会員
※年金受取を予約された方および年金受取機関変更手続き中の方は参加できます。
※年金受取口座を当ＪＡ口座にご指定された方となります。

参加費用
参加費　１，０００円　※当日受付にて徴収し、参加賞・賞品に充当します。
プレー代　９，６８０円（昼食・ワンドリンク付き）

募集定員
９６名　４人でカート２台利用となります。
（先着順で定員に達し次第、締め切ります）

競技方法
①個人戦
②プレー方法　１８H・ストロークプレー
③H．C 新ペリア方式とし、前半９ホールのネットスコアにより順位を決定

表彰基準
上位１０位まで表彰
ほかに飛び賞・特別賞等を用意します。

申込方法
下記店舗にあります『参加申込書』に必要事項を記入し、ＪＡ各支店窓口へご提出ください。
申込締切：令和８年１０月１６日（金）

【お問い合わせ先】

岩井東支店	35-0043
岩井南支店	38-2706
岩井西支店	35-0354
岩井北支店	34-2321
本店金融部	35-1464

